

真国立競技場に関する2013年10月～2017年4月までの動き

2013年10月

「神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会」発足。神宮外苑の緑の環境を守ること、今ある1958年築の国立競技場を改修して使うこと。

<2014年>

何度もの勉強会を開きつつ、賛同者を集める。

<2015年>

7月、9万人近い賛同署名を国会に届ける。7.17安倍首相、当初案の撤回を声明。7・23 JSC有識者会議解散。7/29クアラルンプールで森組織委会長、IOCバトリン会長にメインスタジアムの見直しを報告。

7・30

国会でも「新国立」反対集会、手わたす会(清水・多兎?)、民主党よりヒヤリングを受ける。文科省スポーツ局長久保公人(国会ででたらめを答弁した人)氏更迭。

この頃、酷暑の8月に東京でリビッドをやることへ問題視、強まる。

8・7

河野太郎氏、新国立建設しないオプションを提唱。

8・19

日刊スポーツ報道「ザハ事務所、日本政府の基本方針歓迎、継続して関与を望む」

8・28

新国立1550億円上限で再コンペ。旧計画は2520億、設計会社の試算は3500億だった。

9・1

五輪プログラム、佐野氏の案にベルギーから告訴か。模倣として撤回。

9・1

新国立競技場の新コンクール応募要項発表。

9・5

朝日新聞に「拙速に建てず森を広げよ」(森まゆみ)

9・15

日本建築家協会、「建設業者と組めない建築家の応募が難しい仕組みとなっている」と意見書。結局、ザハ氏も坂茂氏もSANAAも応募を断念。

9・24

新国立競技場に関する第三者委員会の報告「五輪招致決定後に白紙撤回すべきだった」。誰も責任を取らない、との世論に押され、JSCトップの河野一郎→大東和美、下村文科大臣→馳浩、遠藤利明リビア担当相→丸川珠代などの更迭・新任続く。新任者は皆森喜朗に近い人々。リビア組織委員長・森喜朗氏のみ変わらず。坊主頭になっただけ。

9・25

みずず書房より当会の活動と資料を伝える「森の中のスタジアム〜新国立競技場暴走を考える」(森まゆみ)を刊行。

10・26

国立競技場の取り壊し完了。しかし解体工事に関する入札での開札疑惑、裏取引疑惑など解明されず。

11・4

FIFAの理事の多くが賄賂などをもらっていたというスキャンダル、泥沼化。

11・5

元国際陸連会長でIOC名誉委員のディヤック氏、ロシアのドーピングをもみ消したかどでフランス司法当局の捜査対象となる。ロシアオリンピックの組織委員長セルゲイ・レバーコフも2021年世界選手権の開催地選定に絡んで疑惑。

11・17

森喜朗会長、ニコニコと記者会見、「東京五輪、想定の倍以上、「2兆円超すかも」

11・30

ハンブルグ市民、2024年夏季五輪の招致の是非を問う住民投票で否決。

12・9

ガンバ大阪の吹田スタジアム、建設費140億円で建設。全額ファンの寄付。「単価は新国立の二割」

12・12

舛添都知事、新国立競技場に土地を無償貸与、さらに400億円支出を決定。

12・22

JSCは再度コンパをやり直し、隈研吾+梓設計+大成建設のA案、伊東豊雄+日建設計+清水・竹中・大林のB案のうち、A案を選ぶ。双方、名称は期せずして「杜のスタジオ」。

12・26

日経報道「谷根千と新国立」「世界一より静けさを。デザイン開発はご免」

<2016年>

浅田彰氏「国立競技場問題をめぐって」sapio 2月号

霞ヶ丘アパートの住人はほとんどが、1月中に引っ越し、3軒のみ正当な理由で移転先を決めず。アパート解体は大成建設が随意契約で受注。新国立の資材置き場になることがわかる。

1・30

朝日新聞報道「新国立競技場の維持費、50年間で一千億円とJSC公表」。
このようなLCC(ライフサイクルコスト)について・当会は当初より指摘していた。

この頃、ザハ事務所「A案はザハ事務所のプランと酷似」と批判。「東京の屈辱」とも言明。
隈研吾氏は問題ないと言明。

2・3

日刊スポーツ「岸体育館が新国立の南側に新ビル建設」

2・9

「B案の主旨 新国立競技場コンパティションを振り返る」開かれる。

2・23

毎日新聞報道、「外苑ハウスの建て替え問題。ツインタワーか」

一方で弱い立場の都営住宅住民を追い出し、1964オリンピックのプレセクターであった外苑ハウス(政治家関係者が持ち主に多い)を80メートル構想に建て替えとは、あまりに明暗ありすぎでは。

3・12

木の屋根を使うA案で聖火台は置けるのか。置く場所がないことが判明。

JSCが設置場所が必要とも言わなかったと隈氏。スポーツ報知(3・13)によれば森喜朗氏「少し頭のおかしな連中が、聖火台忘れて設計図をつくっちゃった」

あと五か月、リオ五輪の開催準備おくれ。ジカ熱も不安要因。

4・1

朝日新聞報道、ザハ・ハディドさん、マイアミで死去、65歳。

4・6

パナマ文書にFIFAの新会長、登場。

4・14

熊本で大地震。熊本城、阿蘇神社、ジエーツ邸などの文化財、被害に。2017年4月現在も4万7千人が仮設住宅に暮らす。

5月舛添都知事の政治資金規正法違反、公私混同などが問題に。辞任に至る。

5・14

東京五輪裏金疑惑、「JOCの竹田恒和会長、電通が関与し、ブラック・タイティング社を通じて、IOC有力者に2・2億円の現金か」と各紙報道。「我々は被害者」とJOC。しかしこの疑惑もいつしかもみ消されたのか。

6・21

当会も協力して「リソピックとお金」のシンポジウム。

6・24

隈研吾氏、大成建設、梓設計が記者会見。人工地盤については予めから隈氏は変更を提案していたが、JSC側は突っぱねる。隈氏「人工地盤に大きな穴を開け、深部まで光を通す。中も緑化」

舛添辞任に伴う、都知事選で小池百合子氏、初めて女性の都知事に。五輪組織委にX入。

会場整備も見直し。

8・28

朝日報道「新国立の旧案撤回に関して、68億円が回収不能」

9・22

ローマ市長、「リソピックを招致すればローマの債務はさらに増え、市民の大半が反対している。招致を進めるのは無責任だ」

10月ごろ 杣ノ木までに千代田区神田警察前通りなどの並木伐採反対の市民運動起こる。千代田区議会でも論議して計画変更。

「杣ノ木・パノノ木への都税投入を許さない会」「五輪招致時に明言した45億米ドル以上の税を五輪につぎ込まないでください」とフェンゾ オグ 始める。

11・6

朝日新聞報道「神宮外苑の催しで展示物燃焼、5歳児死亡」東京デザインウィークでの出来事。手わたす会メンバーはこの日、直前まで絵画館前でグレイムト 富士を見ていました。日没直後の5時15分の事故で、その頃、現場周辺を皆歩いて帰る途中でした。胸が痛みます。

12

上野駅公園口を杣ノ木までに50メートル北口にずらし、東博の前の参道と交差させ動物園までまっすぐに見通せるようにするという工事のため、公園口前の9本の木に伐採の腹帯が巻かれた。その中の3本は公園事務所が上野公園開設100年を記念して植樹したもの。これに気づいた手わたす会メンバーらが、フェンゾ オグなどで、伐採中止を訴えたところ、「6本は現状で残す。残り3本は移植する」ということで、木の命は助かりました。ここ、酒井さん、正確にお願いします。

12・5

朝日新聞報道「違法伐採の木材、新国立で使用防げぬ可能性。NGO警告」

<2017年>

2017・1・25

「無電柱化の推進に関する法律成立シブジウム」

無電柱化は景観上も結構ですが、それが「杣ノ木まで」というのは、外国人に日本の汚い電線を見せたくないということもあるのかもしれない。また、無電柱化が街路樹を切ったり、そうでなくとも狭い歩道で、変電板が邪魔になったり、通学路の子供の姿が隠れて自転車事故などが起こらないようにしてほしいものです。

2・12

スポーツ報道「誰か聖地マラカススタジアム買いませんか？」

14年ワールドカップ、16年リオ五輪、開催競技場の木付エレファント化進む。

2・21

日本学術会議、新国立競技場の整備見直しを求める提言を公表。石川幹子中央大学教授「長続きしない偽物の緑地では、神宮内苑、外苑の杜を築いた先達に申し訳ありません」と人工地盤を批判。

2・23

日経新聞報道「ブタペスト、24年五輪断念、パリとロの一騎打ちに」
ハブルグ、ホストンなどが市民の反対で、ローマが財政難で立候補を見送り、ブタペストもついに市民が「五輪予算を医療や教育に使うべきだ」と住民投票の実施に必要な倍の署名を集める。五輪離れ、IOCに打撃。

3・20号プレイボーイ「東京五輪裏金疑惑でフランス検察が都内密偵中」
時事通信でも報道。

3・6

毎日新聞報道「東京五輪の経済波及効果32兆3000億。都が試算」
雇用は全国で194万人増、都内で130万人増。これもただの発表ジャーナリズムか。

3・9

朝日新聞報道「新国立競技場のサブトラック整備費、当初想定 of 2倍超に」
38億円が100億円になったというのですが、当初は4億円だったはず。どうしてここまで膨らんだのかわかりません。仮設整備費2800億円。当初想定 of 4倍。

4・1

日経新聞報道「都の五輪施設が赤字見通し、大会後、黒字は有明アリーナのみ」